

A Way of Life

—Seko Koichi—

24号

平成29年10月

世耕弘一先生建学史料室広報

Amazonプリント

オンデマンドで販売中

近畿大学創設者世耕弘一評伝

『炎の人生「我が生、難行苦行ナレドモ我が志、近畿大学トナレリ」
我が志、近畿大学トナレリ』



「アマゾン 炎の人生」で検索

建学史料室発行の『炎の人生「我が生、難行苦行ナレドモ我が志、近畿大学トナレリ」』は、このたび、Amazonプリントオンデマンドでの購入が可能となりました。

プリントオンデマンドとは、注文を受けてから印刷・出荷するシステムで、一冊から入手することができます。

『炎の人生』は平成二十九年二月一日に改訂し、現在は第三版を発行しています。

発行・編集 近畿大学 建学史料室
著者 田島一郎

B6判、全一〇頁

価格六百八十八円（税込）

内容紹介

近畿大学は実学を重視し、人格の養成をめざす、大衆的な大学と

いう評価が定着していますが、これはまさに近畿大学の創設にあたって世耕弘一先生が描いた学園イメージそのものです。ならば、なぜ実学なのか、なぜ人格なのか、なぜ大衆なのか？

（カギは世耕弘一先生の生き方そのものにあるはずだ）。

こうして企画されたのがこの『評伝・世耕弘一先生』です。先生は何を求め、どのように生き、どこを目指し、そして近畿大学に何を託したのだろうか？この視点から先生の波乱に満ちた七十二年の人生を振りかえり、改めて（近畿大学とはなにか）を考えてみたいと思います。

Twitter「不倒館(近大)」

「不倒館－創設者 世耕弘一記念室」のTwitterは、近畿大学の創設者である世耕弘一先生の残した言葉や、不倒館の各種お知らせを配信しています。皆さんのフォローをお待ちしています。

名前 不倒館(近大)
アカウント @futoukan



建学史料室からのお願ひ

▼史料収集

世耕弘一先生、政隆先生、弘昭先生ご生前の関係史料（出版物、書簡、写真、録音テープ、ビデオ、その他何でも結構です）を、現在もお手元に保管されている方々に、その関係史料のご寄贈又は複製でのご提供を賜りたく、当史料室では広く皆様方にご協力をお願いしております。詳細につきましては、史料室へご一報いただければと思います。

▼ホームページ

不倒館の開館日・時間は、近畿大学ホームページ「不倒館」創設者世耕弘一記念室」のサイトでお知らせしております。

近畿大学ホームページのトップページで「不倒館」と入力し、検索してください。

▼ご意見ご感想をお待ちしています

本誌や不倒館ホームページへのご感想やご意見をお寄せください。お寄せいただいたお便りについては、今後の本誌などの編集に役立てさせていただきます。また、こちらからお問い合わせをさせていただく場合や、広報誌の中でお名前とともにご紹介させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

世耕弘一先生の受験当時の 「専門學校入學者試験検定」に関する実証的考察

近畿大学名誉教授 建学史料室研究員 荒木 康彦

1

世耕政隆先生の「樹下去影」¹では、世耕弘一先生の生前の言行が克明に陳述されているのは周知の通りであるが、これとは別のそうした文章がもう一編存在することを発見した。『日本大学雄弁会史誌』（昭和五十年刊行）掲載の「食卓の記」わが父・世耕弘一を語る 世耕政隆²が、それである。前者は、世耕弘一先生逝去後の数年内に物された事等もあつて、追悼的な莊重な感じがするのであるが、後者は逝去から時間を経て物された事もあり、「編集委員会から、なにか亡父の思い出を語れ、というおすすめである」³という瀟洒な書き出しの文からも窺える様に、又洒脱なタイトルからも察せられる様に、「亡父の思い出」が、言わば「袴を脱いで」、述懐されている。他日、何らかの形で「食卓の記」わが父・世耕弘一を語る」の全文を紹介出来る様にしたいと想っており、その理由は、ここでは世耕弘一先生が晩餐時に御家族に語られていた話題が具体的に知られて興味を尽さないからである。例えば、「折々の海外情勢、外交、内政、思想、わが人生哲学、日大ストライキ（当時職員）。学生時代の弁論部のこと。

或いは、雪の降りしきるドイツの町々、ドイツ人の師、友人知己の思い出（父は生涯ドイツ人をもっとも親愛した）等⁴である。又「この食卓の話題で、よく登場した人々に、山岡万之助元総長、原惣兵衛、小林、青木孝義、佐藤高一、加藤勘十、吉田勘三、猪俣浩三、柿沼末太、小松雄道、柏原毅、小村実（元慶大教授）、小林二三（元阪急、東宝社長）、尾崎罌堂、森恪、岡崎邦輔、鈴木喜三郎、鳩山一郎氏等があつた」⁵のである。更に「どうしてか専檢合格までの談は、余り聞かされていない。（中略）大陸放浪、旅芝居一座の食客、人力車をひいたことも。私は、のちに講談社の大衆雑誌にのつた実名小説から、友人に指摘されて、偶然に知つたのだつた」⁶と特記されている事は、洵に刮目に値する。この「専檢」とは「専門學校入學者検定」の事であるのは、言うを俟たない。更に言えば、後に詳しく触れる様に、この「検定」には「試験検定」と「無試験検定」とがあり、通常は「専檢」とは前者、即ち「専門學校入學者試験検定」を意味した。

が、それでも具体的な「専檢合格までの談」についての言及は、殆ど皆無である。唯一の例外は山原喜久雄という人士が寄せた「学生時代」という一文であり、「神田橋外美土代町電車通りの富国バー」での「日大予科一年生の新入学懇親会」にて世耕弘一先生が行つた「桁はずれの自己紹介」であり、そこで語られた「青雲の志を抱いて」渡つた旧「満洲」（現中国東北部）での経験であり、「結局内地に戻つてやり直し学ぶにしかずと日大に入學した」⁸というものである。だが、そこでも「専檢合格」の事は言及されていないのである。「選挙も闘争も、勝者がすぐれ負者が駄目なのだ、とわり切つていた」⁹世耕弘一先生にとつては、当時難関と評された「専檢」の合格も取り立てて言うべき程の事ではない、という判断の結果、先生自ら語られる事は無かつたのであろうか。とまれ、「専檢合格までの談」は「講談社の大衆雑誌にのつた実名小説から」、即ち雑誌『キング』第十五巻第四號（昭和十四年四月一日發行）に「實話小説」と銘打つて掲載された穂積驚作「學生俤夫」から、漸く周知の事となつたのであろう。

後にも触れるが、明治三十六年に「専門學校入學者検定規程」が制定されてから、それが大正十三年に改正される迄であり、第二期はそれ以後から昭和二十六年に「大学入學者検定規程」が制定される迄である。第一期は「試験検定」に限定して言うならば、道府県ごとで実施され、一度に全科目の試験に於いて合格点を得なければならず、文字通りの難関であつた。第二期は実施主体が文部省となり、科目合格制度が導入されて一度に全科目の試験に於いて合格点を得る必要がなくなり、難度が若干緩和された。世耕弘一先生が受験されたのは、此試験は畢竟禁止試験¹¹と評された程に厳しい「試験検定」である第一期に属していたことは、言うを俟たない。

第一期の「試験検定」についての一次史料は従来余り発見されておらず、又それについての綿密な実証的研究も多くなく、その具体的な実態は明確には把握出来ていない。そうしたことから、自ら採取した関係一次史料や可信性の高い史料に可能な限り立脚して、先生が受験された時期の「専門學校入學者試験検定」について実証的に考察する事にした。

2

明治三十六年三月二十六日に公布された「勅令第六十一號 専門學校令」の「第五條」に於いて、「検定」に關し以下の様に定められた¹²。

第五條 専門學校ノ入學資格ハ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スルモノト檢定セラレタル者以上ノ程度ニ就テ之ヲ定ムヘシ（中略）
前項檢定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

この「専門學校令第五條第二項」 檢定規程」を、文部大臣菊池大麓はに依り、明治三十六年三月三十一日 「文部省令第十四號」として定めた¹³。
に次の様な内容の「専門學校入學者

第一條 専門學校ノ本科ニ入學セントスル者ニシテ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ヲ卒業セサル者ハ此規程ニ依リ檢定ヲ受クヘキモノトス

第二條 檢定ヲ受ケントスル者ハ左ノ資格ヲ具備スルコトヲ要ス

一 年齢男子ハ滿十七年以上女子ハ滿十六年以上ナルコト

二 身體健全ナルコト

三 品行方正ナルコト

四 現ニ中學校若ハ高等女學校ニ在學セザルコト

第三條 檢定ヲ分テ試験檢定、無試験檢定ノニトシ試験檢定ハ官立、公立ノ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ニ於テ便宜之ヲ行ヒ無試験檢定ハ當該専門學校ニ於テ生徒入學ノ際之ヲ行フ

第四條 試験檢定ノ學科目及其ノ程度ハ中學校若ハ修業年限四箇年ノ高等女學校ノ各學科目及其ノ卒業ノ程度トス但シ中學校若ハ高等女學校ニ於テ加除シ又ハ課セサルコトヲ得ル學科目ハ之ヲ省ク

第五條 官立、公立ノ中學校若ハ高等女學校ニ於テハ試験檢定ニ合格シタル者ニハ試験檢定合格證書ヲ交付スヘシ

第六條 官立、公立ノ中學校若ハ高等女學校ニ於テハ試験檢定ノ問題、答案及成績表ハ五箇年以上保存スヘシ

第七條 官立、公立ノ中學校若ハ高等女學校ハ試験檢定手数料ヲ徴収スルコトヲ得

第八條 左ニ掲クル者ハ無試験檢定を受クルコトヲ得

一 文部大臣ニ於テ専門學校ノ入學ニ關シ中學校若ハ修業年限四箇年ノ高等女學校ノ卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定シタル者

二 明治三十五年文部省告示第八十二號ニ依リ高等學校入學ノ豫備試験ニ合格シタル者

附 則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ施行ス

便宜上、「男子」に限定して、この「規程」が定める「檢定」の要点を纏めるならば、次の様になるろう。

①「専門學校ノ本科」に入學しようとする者で、「中學校」を卒業していない者は、この「規程」に依つて「檢定」を受けるべき事

②「檢定」を受ける者は滿十七歳以上で、「身體健全」且つ「品行方正」である事

③「檢定」は「試験檢定」と「無試験檢定」とに二分され、前者は「官立、公立ノ中學校」で実施され、後者は「當該専門學校」で実施される事

④「試験檢定ノ學科目及其ノ程度」は「中學校」の「各學科目及其ノ卒業ノ程度」とする事

⑤「官立、公立ノ中學校」は「試験檢定ニ合格シタル者」に「試験檢定合格證書」を交付すべき事

⑥「官立、公立ノ中學校」は「試験檢定手数料」を徴収し得る事

この「専門學校入學者檢定規程」の第三條から第七條にあるように「官立、公立ノ中學校若ハ高等女學校」が「試験檢定」の実施及びその関係業務を果たすことになっており、従つてそれらの實際の業務に関する細則が道・府・県段階で定められている。例えば、東京府の場合、『警視廳 公報』第壹千五百四拾六號（明治四十三年四月十四日）に於いて「東京府令第三十三號」として公布された、次の様な内容の「専門學校入學者試験檢定細則」が、それである¹⁴。

明治三十七年^四東京府令第二十八號專門學校入學者試験檢定細則左ノ通改正ス

明治四十三年四月十四日 東京府知事 阿部 浩

專門學校入學者試験檢定細則

第一條 明治三十六年文部省令第十四號專門學校入學者檢定規定第一條ニ依リ試験檢定ヲ受ケ
ント欲スル者ハ左式ノ願書ニ履歷書、戸籍抄本、半身寫眞(手札形裏面 氏名日記)一葉及試験檢定手數料
領收證書ヲ添ヘ試験ヲ行フ學校ヘ差出スヘシ

試験檢定願

本籍
現住所
族稱 氏 名 (氏名ハ振假
名ヲ用ヘシ)
生 年 月 日

私儀專門學校入學者試験檢定細則ニ依リ御校ニ於テ試験檢定相受度履歷書、戸籍抄本、
寫眞及試験檢定手數料領收證相添ヘ此段相願候也
但試験檢定ノ科目中外國語ハ英語(獨乙語、佛語)ニテ致度候

右 氏 名 印

年 月 日 東京府立(何々)中(高等女)學校長宛

第二條 「出願期限」及「試験檢定ヲ行フ學校」ハ毎年十二月之ヲ公告ス

但臨時之ヲ公告スルコトモアルヘシ

第三條 「試験日時割」及「受験人ノ受験ニ關スル心得」ハ試験ヲ行フ學校之ヲ定メテ揭示ス

第四條 試験檢定手數料ハ金五圓トシ檢定出願ノ際試験ヲ行フ學校ヨリ納額告知書ノ交付ヲ受

ケ現金ヲ添ヘ東京府本金庫ニ納入スヘシ但シ一旦納メタル手數料ハ如何ナル事情アルモ還付セス

第五條 試験期日ニ缺席シ又ハ試験半途ニ退席シタルモノハ其ノ期ノ試験ヲ受タルコトヲ得ス

不正ノ方法ニ依リ試験ヲ受ケント企テタル者及受験ニ關スル心得ニ違背シタル者ハ試験ヲ受

クルコトヲ得ス

檢定ニ合格シタル後前項ノ事實發覺シタル時ハ其合格ヲ無効トス

第六條 試験檢定合格者ニハ左式ノ合格證書ヲ授與ス

試験檢定合格證書

道府県族稱 氏 名

生 年 月 日

右ハ明治三十六年文部省令第十四號專門學校入學者檢定規程ニヨリ本校ニ於テ試験
檢定ノ上中學校(高等女學校)卒業者ト同等ノ學力ヲ有スルコトヲ證ス

年 月 日 檢定試験ヲ行ヒタル學校長名 印

先に掲げた「專門學校入學者試験檢定細則」の
第二條に「出願期限」と「試験檢定ヲ行フ學校」
は「毎年十二月之ヲ公告ス」とある事から、当時
の「東京府の公告」の公示方法を調査した結果、
次の様な事が判明した。

「東京府の公告」の公示方法は、目まぐるしく変
遷しており、明治三十一年九月二十五日刊行の『讀
賣新聞』第七千六百十五號に掲載された「東京府
令第七十一號」に東京府の「公文」の「公布式」
改定の通告は次の通りであり¹⁵、その「公布式」は
昭和十八年六月まで行われたのである¹⁶

東京市及東京府公文

東京府令第七十一號

当廳公文ハ来る十月一日より警視廳及當廳に於て
公報を發刊し之に登載して島廳郡市役所町村役場
島役所及村役場に配布し尚ほ各揭示場に揭示せし
むるを以て公布式と改定す

但明治三十年(三月)東京府令第六十號ハ本令施
行の日より之廢止す

明治三十一年九月二十五日

東京府知事 肥塚 龍

それ故に、志願者が「出願期限」と「試験檢定
ヲ行フ學校」に關する「公告」が掲載された「公報」
に接し得たのは、先ず以って東京府内或いは東京
市内の「役所」や「役場」に於いてか、東京府内
或いは東京市内の「各揭示場に揭示」に依つてで
あったらう。

当時、警視廳と東京府が共同で刊行していた『警視廳
公報』の大正六年十二月の分を精査した結果、
その「第八拾號」(大正六年十二月四日)¹⁷に決定的
な一次史料を見出し得た。それは、次の様なもの
である。

○東京府公文

○東京府告示

東京府告示第三百二十二號

明治四十三年^四東京府令第三十三號第二條ニ依リ左ノ事項ヲ定メ男子ニシテ專門學校へ入學志望者ノ爲ニ試験檢定ヲ行フ

但詳細ハ當該學校ニ就キ承合スヘシ

大正六年十二月四日

東京府知事法學博士 井上友一

- 一出願期限 大正七年一月八日ヨリ全月末日マテ
- 一試験檢定ヲ行フ學校
- 一 麹町區西日比谷町東京府立第一中學校

この史料から、大正六年度中に東京府内で「専門學校入学者檢定」の試験が実施されたのは「麹町區西日比谷町東京府立第一中學校」に於いてであった事が判明した。そこで、当校の後身である東京都立日比谷高等学校の資料館に調査を申請し、特段の御高配で関係史料を調査させて頂いた。この調査の結果、次の様な関係史料を閲覧・採取出来た。

①「大正七年二月施行

第十六回^{専門學校入学者}試験檢定問題

東京府立第一中學校

(整理番号なし、縦約二十五・六センチ横約十七・八センチの和綴じ冊子、写真①参照)

②「大正七年二月

第十六回^{専門學校入学者}試験檢定受驗者

點檢名簿

東京府立第一中學校

(整理番号：I-16・T)、縦約二十八・三センチ横約十九・七センチの冊子、写真②参照)

③「大正七年二月

第十六回^{専門學校入学者}試験檢定書類

東京府立第一中學校

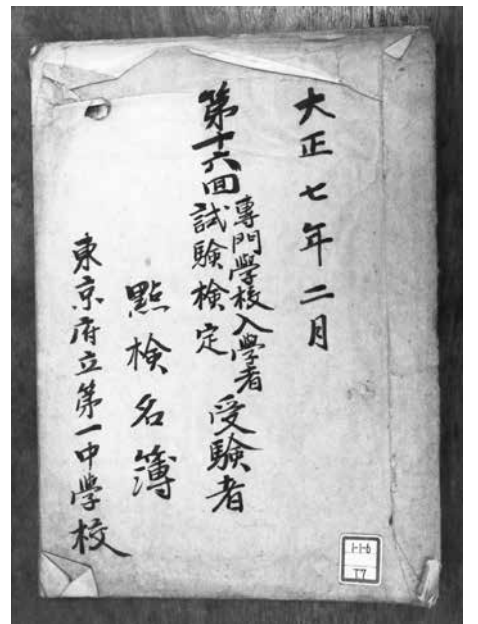
(整理番号：I-16・T)、縦約二九センチ横約二十一センチの和綴じ冊子、写真③参照)



写真①東京都立日比谷高等学校資料館所蔵 「大正七年二月施行

第十六回^{専門學校入学者}試験檢定問題

東京府立第一中學校」の表紙

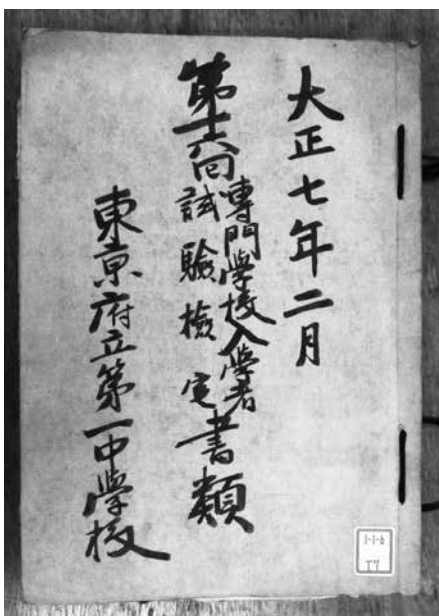


写真②東京都立日比谷高等学校資料館所蔵 「大正七年二月

第十六回^{専門學校入学者}試験檢定受驗者

點檢名簿

東京府立第一中學校」の表紙



写真③東京都立日比谷高等学校資料館所蔵 「大正七年二月

第十六回^{専門學校入学者}試験檢定書類

東京府立第一中學校」の表紙

- ①は「第十六回専門學校入學者試験檢定」の全筆記試験科目の謄写版刷りの試験問題を収録したものである。
- ②は試験当日に試験会場で監督者が受験者を照合する時に使用されたと判断される、受験者二三四名から成る名簿である。
- ③はこの中で最も重要なものであり、東京府立第一中學校に於ける大正七年二月の「第十六回専門學校入學者試験檢定」の全過程に関する諸史料が網羅的に収録されており、それらは大略次の様なものである。
- (1)「専門學校入學者檢定二付新聞廣告案」
- (2)「^{大正七年二月}専門學校入學者檢定受験者心得」
- (3)受験料五圓の「納額告知書・領収證書・納入済通知書・納額告知書原符」
- (4)「^{大正七年二月}専門學校入學者檢定志願者證票」
- (5)表題なしの総受験者二二四名の各受験科目の得点・総点・平均点・成績順位を記した一覧表
- (6)表題なしの合格者四十一名の各受験科目の得点を記した一覧表
- (7)「東京府立第一中學校長川田正激」より「東京府知事法学博士井上友一」宛の大正七年三月十六日付「壹中甲第二二號 専門學校入學者試験檢定施行ノ儀ニ付開申」
- (8)「第十六回専門學校入學者試験檢定成績表(合格者之部) 大正七年二月」

- (9)「證書日付」・「證書番號」・「府県族称」・「氏名」・「生年月日」記載の「第十六回専門學校入學者試験檢定合格者」四十一名の一覧表
- (10)「本籍」・「現住所」・「族称」・「氏名」・「年月日」記載の「第十六回専門學校入學者試験檢定合格者氏名 大正七年二月」の一覧表
- (11)「余分」と付記された「大正七年専檢不合格者成績表(不合格者之部) 大正七年二月」
- (12)全筆記試験科目の謄写版刷りの試験問題
- (13)「専門學校入學者試験檢定体操成績」
- (14)東京通信社よりの東京府立第一中學校宛の新聞広告掲載の「見積書」(一金拾円式錢也)
- (15)合格者六名よりの「専門學校入學者試験檢定合格」についての「証明願」乃至「証明書下付願」
- (1)及び(14)から分かるのは、「大正七年二月本校ニ於テ専門學校入學者試験檢定ヲ行フ(出願期間ハ一月八日ヨリ一月三十一日迄) 詳ハ本校ニツキ承合スベシ」という内容の東京府立第一中學校の「専門學校入學者試験檢定新聞廣告」が、東京通信社を通じ、同年一月十日付「萬朝報」、一月十一日付「報知新聞」、一月十二日付「中央新聞」に掲載された事であり、先に言及した「^{東京府}警視廳公報」の「第八拾號」以外、これらの「新聞廣告」からも「試験檢定」実施に就いて、志願者は知り得たという事になる。

(2)・(3)・(4)は受験者に配布されたと推測されるが、(2)は大正七年二月に東京府で「第十六回専門學校入學者試験檢定」が如何に実施されたかを知る上で、極めて重要な一次史料である。そこには「一、出願手續」・「二、試験日、場所、科目」・「三、受験心得」に関し、具体的且つ詳細に明記されている。「一、出願手續」では、「試験檢定願書」・「履歷書」・「戸籍抄本」・「半身寫眞」・「試験檢

- 第一回 二月四日(月) 自午前八時 至午後七時 數學
- 第二回 二月八日(金) 外國語
- 第三回 二月十二日(火) 國語及漢文
- 第四回 二月十六日(土) 歴史
- 第五回 二月二十日(水) 物理及化學
- 第六回 二月廿五日(月) 圖畫

- 數學 自午前七時 至午後七時
- 外國語
- 國語及漢文
- 地理
- 博物
- 修身、體操

「三、受験心得」として、次の十二点が掲げられている。(一)二月二日(土)午前八時出校の事、(二)試験は八時迄に所定の控室に集合して係員の指示を受ける事、(三)試験時の服装に関する事、(四)試験時には「須要ナル器具」以外の携帯は禁止の事、(五)「試験答案」には「毎紙必ず受験番號氏名」を記入する事、(六)不正行為は禁止の事、(七)「試験日」に欠席等した者には「追試験」は許されない事、(八)「試験場」内外で「係員ノ指揮ニ背ク者」は退場の事、(九)時間は「試験場ノ時計ニ依ル」事、(十)「一科目タリトモ其ノ成績所定ノ標準ニ達セザ

定手数料金五圓」を「二月八日(火)ヨリ一月三十一日(木)迄」に「本校ニ差出シ志願者證票ヲ受取り受験ノ際必ず之ヲ携帯スベシ」とされ、「試験檢定願」の雛型(先に触れた「専門學校入學者試験檢定細則」に掲載されたのと同じ)が掲げられている。「二、試験日、場所、科目」では「試験ハ二月四日(月)ヨリ左ノ日程ニ依リ施行ス」とされ、次の様な「試験日程」が掲げられている。

(5)・(6)・(13)は、この「試験檢定」を実施した時に作成された受験者及び合格者の成績一覧表であり、特に(5)は重要で、これを精査した結果、選抜の実際の過程が判明した。(5)の八丁裏の最後尾に「第一回 百五十

点以上 百十九名」、「第二回 百二十点以上 八十二名」、「第三回 百二十点以上 七十八名」、「第四回 百四十点以上 七十五名」、「第五回 九十点以上 六十五名」、「第六回ハ総平均点デ六十点以上四十一名合格」と明記されている。又、(13)の表には五十五名が挙げられているが、その内の六名は朱線で消されている。(2)の「三、受験心得」の「十一」にある「一科目タリトモ其ノ成績所定ノ標準ニ達セザルモノハ引續キ試験ヲ受クルコトヲ得ズ」とする所謂「篩ひ落し制度」¹⁸⁾の厳しい実態が、(5)に於いて、如実に看取される。「第一回 二月四日(月) 數 學」では「篩ひ落し」によって「百十九名」が残り、「第二回 二月八日(金) 外國語」では同様に「八十二名」が、「第三回 二月十二日(火) 國語及漢文」では同様に「七十八名」が、「第四回 二月十六日(土) 歴史」^{地 理}では「七十五名」が、「第五回 二月二十日(水) 物理及化學 博 物」では「六十五名」が残り、「第六回 二月廿五日(月) 圖 畫 修身、體操」を経て「四十一名合格」と判定された、と想われる。毎回「篩ひ落し」を受けた者には、(2)の「三、受験心得」の(十)に従って「端書ヲ以テ通知」されたのである。洵に苛厳な「篩ひ落し」選抜である、と言わなければならない。

そして、(8)・(9)・(10)を添付して、「第十六回専門學校入學者試験檢定」に於いて「志願者総員貳百貳拾四名中

四拾壹名合格」した旨の(7)の「開申」が、当時の東京府立第一中學校長川田正激より東京府知事井上友一へ提出されたものと、判断される。

以上から、この「第十六回専門學校入學者試験檢定」が如何に実施されたかを、大略解明出来た訳であり、又そこから世耕弘一先生が受験された時期の「専門學校入學者試験檢定」が如何に「狭き門」であったかに、改めて想いを輸した次第である。

注

- 1 回想世耕弘一編纂委員会編『回想世耕弘一』(回想世耕弘一刊行会 昭和四十六年) 八一―十五頁。以後、本書は『回想世耕弘一』と略称する。
- 2 岩井肇編『日本大学雄弁会史誌』(桜門雄弁クラブ 昭和五十年) 二二―三―二―五頁。以後、本書は『日本大学雄弁会史誌』と略称する。
- 3 『日本大学雄弁会史誌』二―三頁。
- 4 『日本大学雄弁会史誌』二―四頁。
- 5 『日本大学雄弁会史誌』二―四頁。
- 6 『日本大学雄弁会史誌』二―四頁。
- 7 『回想世耕弘一』八十七―八十九頁。
- 8 『回想世耕弘一』八十八頁。
- 9 『回想世耕弘一』十頁。
- 10 菅原亮芳「戦前日本における「専検」試験檢定制定試論―基礎的資料の整理を手がかりに―」(『立教大学教育学科研究年報』第三十三号 平成元年) 三十八頁。三上敦史『近代日本の夜間中学』(北海

道大学図書刊行会 平成十七年) 六十七頁。

- 11 前掲菅原論文三十八頁。
- 12 『官報』第五千九百十七號(明治三十六年三月二十七日)「国立国会図書館デジタルコレクション」にて閲覧。
- 13 『官報』第五千九百二十號(明治三十六年三月三十一日) 同右。
- 14 当該史料は東京都立中央図書館所蔵のものを利用。
- 15 『讀賣新聞』明治三十一年九月廿五日。「ヨミダス歴史館」にて閲覧。
- 16 「東京都広報の歴史―警視庁と東京都庁の場合」(東京都公式HP)。
- 17 当該史料は東京都立中央図書館所蔵のものを利用。

アーカイヴズ研究活動報告

学内研究会開催報告
研究プロジェクト
近畿大学の大学アーカイヴズと
校史関係史料の収集・研究

整理に関する調査・研究
―資料保存とデジタル化―

法学部教授
建学史料室研究員 上崎 哉

建学史料室では、学外の講師をお招きして定期的に講演会や勉強会を開催しているが、テーマの選定に当

18 独學受験研究會編『専門學校入學資格檢定試験問題詳解並受験新法』(自給社 大正十年) 三四六頁。「国立国会図書館デジタルコレクション」にて閲覧。

追記

貴重な一次史料の調査・閲覧を許可頂いた東京都立日比谷高等学校資料館に、懇切な御協力を頂いた同館の中村由紀子氏に深謝したく思う。

近畿大学の関係者のみは「先生」としたが、それ以外の人士については敬称を省いているので、この点は諒とされたい。

原典尊重の観点から引用史料の表現・漢字は、原則として、そのままにしている。

たつては、広く教職員の方々に関心を持って貰えることを念頭に置いている。今回は、校舎建て替えに伴う資料の処分や事務の効率化との関連性という観点から、「デジタル化」をテーマとして設定した。講師は、田窪直規教授の推薦により、株式会社アピックス 大阪リソースマネジメント部に勤務され、本学で非常勤講師として「文書情報管理論」を担当されている松井正宏氏に依頼することとなった。

松井氏によるご講演は、平成二十八年十二月十七日(土)に、近畿大学東大阪キャンパス18号館3階301教室にて行われた。その際の模様を松井氏ご自身が『月刊IM』

二〇一七年三月号で紹介されたので、承諾を得てここに転載させて頂くこととする。

資料保存とデジタル化

「近畿大学の大学アーカイヴズと校史関係史資料の収集・整理に関する調査・研究」

学内研究会 講演の報告

近畿大学 短期大学部

非常勤講師 松井 正宏

株式会社アピックス

大阪リソースマネジメント部

JIMA文書情報管理士

検定委員会 委員

去る平成28年12月17日(土)、近畿大学の建学史料室研究プロジェクトで「資料保存とデジタル化」という講演をしましたので報告します。

講演目的と準備

今講演は校史関係の史資料の収集・整理に関する具体的な知見のひとつとして、「資料保存とデジタル化」について学内教職員で共有するために行われました。

対象者：近畿大学学内教職員

日 時：平成28年12月17日(土)

10時30分～12時10分

場 所：近畿大学

東大阪キャンパス

18号館3階301教室



この試みは、近畿大学短期大学部商経科の田窪直規教授(図書館情報学、博物館学、文書館学などが専門)からの発案で実現したものです。

現在、近畿大学では新校舎の増築・校舎の建て替えなど、キャンパス内の整備が進んでおります。その際に、取り壊される建物内の資料や、建築物自体の歴史的资料、新校舎での省スペース化推進による資料の安定的・安全な保存について、学内研究会が立ち上げられていました。また、「校史関係史資料の収集・整理に関する調査・研究」も課題として取り上げておられるので、電子化・アーカイブの知識の共有が求められている状況と聞いていました。そこで、田窪教授から、「文書情報

管理論」を講演している私に、職員方の文書情報に関する基礎的な話をしてもらえないかとの要請がありました。

大学で「文書情報管理論」を受け持たれていた前任者(JIMA検定試験委員)の後を引き継ぎ、かつて東京赴任の折に検定委員会に参加していた私に白羽の矢があたり、現在のように近畿大学で「文書情報管理論」を受け持つようになったのですが、こんな私で今回の希望に添えるかとたいへん危惧していました。しかしJIMA事務局の後押しをもらい講演を引き受けました。

まず、説明会用資料を作成して近畿大学法学部の上崎教授と、事前打ち合わせを行わせていただいで確認しながら内容を作成していきましました。試行錯誤しながらレジュメを作り上げて講演に臨みました。

参加者は教職員の方々でしたので、内容の真意を理解しようと皆さん熱心にお聞きになっていました。通常は学生たちにざっくりばらんな物言いのできるだけフランクにわかりやすく説明することを重視していましたが、職員の方々、年配の方々への場はやはり空気感が違って緊張いたしました。

第二期勉強会開催報告

第三回(通算第十二回)勉強会
(平成二十八年七月二十日)

建学史料室広報誌の編集、学内研究会の講演の準備、第一期調査・研究報告冊子の編集についての状況が報告された。一〇〇周年誌編纂については、大日本印刷周年資料室の見学内容が報告された。

また、第二期調査・研究の目標、活動内容、役割・担当者についての再確認と変更がなされた。前回の勉強会以降、学内については、総務部総務課調査、中央図書館調査が行われ、学外では世耕弘一先生に関する史資料調査も進められた。その進捗状況の説明があり、今後の課題、作業方針・内容が告げられた。学外アーカイヴズ訪問調査として、九州大学、福岡共同公文書館、福岡大学での年史編纂、資料保存・閲覧についての報告がなされた。

その他、新聞・雑誌の記事調査選定作業についての報告があった。

(短期大学部教授

建学史料室研究員 井田 泰人)

第四回(通算第十三回)勉強会
(平成二十九年一月二十四日)

第二期調査・研究の進捗状況として、学外史資料調査、管理部調査、雑誌・新聞記事調査についての成果報告が行われた。また、第二期調査・

研究の目標と分担の確認、一〇〇周年誌の編纂状況、『炎の人生』第三版の出版案内、広報誌二十三号の編集経過、建学史料室員研修・講演会の計画などが報告された。

(経営学部教授)

建学史料室研究員 稲葉 浩幸)

第五回(通算第十四回)勉強会
(平成二十九年三月二十七日)

附属新宮高等学校・中学校の校内見学と、同校顧問橋本昭彦氏による講演会「世耕弘一先生の魂にふれる」が行われた後、同校図書室にて勉強会が開催された。富岡研究員からアーカイヴズ関係文献の報告(嶋田典人「学校アーカイブズの保存と利用」『記録管理』から「アーカイブズ」へ)、荒木研究員から校史関係の学外史資料調査の報告(樟蔭高等女学校の「設立二閏スル書類」の調査、正則英語学校に関する史料調査)があった。また第一期報告書が完成したこと、一〇〇周年誌編纂小委員会が四月から活動することが報告された。第二期の調査・研究計画については、目標・活動内容・分担が確認されるとともに、報告書の取りまとめを九月に行うか、さらに半年ほど調査を進めるかを、次回の勉強会までに考えることとなった。

(文芸学部教授)

建学史料室研究員 鈴木 拓也)

現況調査報告

中央図書館調査報告

近畿大学名誉教授

建学史料室研究員 荒木 康彦

講談社の起源である大日本雄辯會が刊行した月刊誌『雄辯』の第一巻(明治四十三年)一第十八巻(昭和二年)、計二一二冊が、本学中央図書館に所蔵されている。押されているスタンプに依れば、受入は昭和二十七年六月三十日である。CZで検索すると、この『雄辯』を最も多く所蔵するのは「公益財団法人日本近代文学館」で、第一巻(明治四十三年)一第三十二巻(昭和十六年)、計三三六冊であり、次に多く所蔵するのは「神戸大学附属図書館」で、第一巻(明治四十三年)一第二十四巻(昭和八年)、計二五六冊である。本学中央図書館はこの『雄辯』の所蔵冊数は第三位ではあるが、所蔵の第一巻一第十八巻の内の欠号は僅か四冊だけであり、第一巻一第十八巻に限れば「公益財団法人 日本近代文学館」は一八五冊、「神戸大学附属図書館」は一八九冊、「社会科学系図書館」は一八九冊を所蔵するに過ぎない。故に、本学中央図書館の所蔵分は第一巻一第十八巻と限られているが、欠号率の極めて低いものである。同誌に注目する所以は、いずれにも「雄辯だより」乃至「雄辯便り」が掲載されて

おり、そこから全国の大学と専門学校の「雄辯會」や全国乃至地方の「雄辯大會」等の活動が知られるからである。

大正七年日本大学豫科に入学されて大正十二年日本大学を卒業された世耕弘一先生は、「雄辯會」に属して活躍しておられ、その様子を当該時期の『日本法政新誌』巻末の「日本大学記事」に依拠して開催日・開催会・先生の演題という形式で纏めて、本『広報』第二十三号掲載の拙論に於いて次の様に提示した。

- ①大正八年五月十八日・日本大学春季雄辯會・「所感」
- ②大正八年十一月五日・日本大学秋季雄辯會・「不良老年処分を諭す」
- ③大正九年九月二十三日・日本大学雄辯會秋季大會・「日米問題ノ現在ト將來」
- ④大正九年十月十日・全國各大学聯合雄辯大會・幹事として「開會の辞」
- ⑤大正九年十一月十四日・各大学専

▲十月十日、日本大学に於て、全國各大学専門
学校聯合雄辯大會あり。
一、開會之辞

(後略)

本学 世耕弘一
幹 事

更に、注目すべきは、この『雄辯』の次號、即ち第十二巻第一號(大正十年一月一日發行)の劈頭に「日本大学主催全國大学専門学校聯合雄辯大會」の集合写真が掲載されており、不鮮明なので断定出来ないが、

門学校主催学生聯合雄辯大會・「大和民族を率ひて」

⑥大正十年二月五日・各大学専門学校主催學生連合雄辯大會・「偶成」

⑦大正十年二月十三日・日本大学雄辯會春季雄辯例會・「動物と人間」

⑧大正十年五月一日・日本大学雄辯會春季雄辯例會・「人」

⑨大正十年十一月二十日・全國大学専門学校學生聯合大演說大會・「創造の進化」

そこから、世耕弘一先生は「雄辯會」では学内だけではなくて、学外でも全国的によく知られた存在だったと推測したのであるが、『雄辯』の「雄辯だより」乃至「雄辯便り」にも上記の④・⑤・⑦・⑧について、特に④については明確に報じられている事から、それが確認されたと言える。即ち、『雄辯』第十一巻第十二號(大正九年十二月一日發行)の「雄辯便り」(二七二頁)には、次の様に報じられている。

世耕弘一先生と思しき人士が見られる。又、同號掲載の「雄辯便り」には⑤について『日本法政新誌』よりもやや詳しく、大正九年「十一月十四日正午より神田明治會館に於て宗教布教團主催の都下各大学専門

校學生聯合雄辯大會があつた。」とされ、「一、大和民族を率ひて日本 世耕弘一君」と記されている(二五二頁)。しかも、同號の「雄辯便り」には「雄辯會」とは直接関係のない日本大學の学生の活動が、次の様に報じられている(二五一頁)。

■十一月七日(日) 正午より日本大學校庭に於て同大學學生會の主催する、又學生の組織する日本座員の出演による北支那飢饉救済慈善演藝會があつた。會費は金五圓、貳圓、參拾錢で、番組は左の如くである。

(後略)

そして、その「番組」の一つである「高田の馬場義憤の一刃」の配役に「のりや婆 世耕弘一」と認められる。

最後に付言すべきは、『雄辯』第一巻(第十八巻の本学中央図書館に受け入れが、世耕弘一先生の在世中であるのは三思に値するという事である。また、「大日本雄辯會」刊行の『雄辯』に学生時代の先生の活躍の様子を報じる記事が頻出する事は、「大日本雄辯會講談社」刊行の雑誌『キング』第十五巻第四號(昭和十四年四月一日發行)に「實話小説」と銘打った穂積驚作「學生傳夫」が掲載された事にピアニシモで連綿と繋がるものと想われる。

追記

原典尊重の観点から引用史料や固有名詞の表現・漢字は、原則として、そのままにしている。

校史関係の学外史資料調査

近畿大学名誉教授
建学史料室研究員 荒木 康彦

I. 正則英語學校に関する史料について

世耕弘一先生に関する史料が最も乏しいのは旧満州(現中国東北部)での活動時期であり、次いで乏しいのは旧満州からの帰国後から日本大學豫科入学(大正七年)までの時期であり、先生はこの時期に俣夫として働きながら正則英語學校に通学され、「専門學校入學者檢定」の試験に合格されている。そうした意味では、明治二十九年に英語學者の斎藤秀三郎(一八六六―一九二九)によって東京市神田区錦町に設立された正則英語學校について調査するのは非常に重要であることは言うを俟たない。

い。然るに、世耕弘一先生が通学されたと思しき大正時代初期の正則英語學校についての一次史料は従来殆ど発見されておらず、同校の客観的実態は不明であった。同校の後身校である「正則学園高等学校」に当該時期の史料の有無を問い合わせたところ、それは殆ど皆無という回答であり、関東大震災で正則英語學校が灰燼に帰した事に起因するのである。

大下宇陀児著『土性骨風雲録 教育と政治の天下人 世耕弘一伝』(鏡浦書房 昭和四十二年)一八〇頁にある、世耕弘一先生が旧満州から東京に戻られた箇所「さつそく、大湊木材時代から目をつけていた神田の正則英語學校へ行つて規則書をもらつてきた。この學校には夜学がある。」という記述から、正則英語學校は入学志願者に「規則書」を配布していたと推察されるのである。時代的にはやや下がるが、大正八年十二月二十六日刊行『官報』第二二二〇號、大正九年一月四日刊行『官報』第二二三號、大正九年一月六日刊行『官報』第二二四號に掲載されている「正則英語學校豫備學校生徒募集」の広告に「規則書入用者要郵券二錢」とあるのを見出した。

そこで、正則英語學校の「規則書」を長時間に亘り博搜した結果、幸いに最近入手出来た。この史料は縦約四十五・八センチ、横約六十二・三センチの大型紙両面印刷である。表には次のような表題が付けられ、その

下の枠内に規則、書類様式等が印刷されており、表題横の左肩には「入會規則」、右肩には「正則英語學校講義録」の広告が印刷されている。

(大正元年十一月)

正則英語學校規則一覽

所在地東京市神田區錦町三丁目二番地
(電話本局二〇九六番)

「入會規則」とは、正則英語學校が一種の通信教育を行つており、その入會規則であり、『正則英語學校講義録』はその目的のもので、「大正二年三月十四日印刷」、「大正二年三月十七日發行」で、「定價金廿五錢 郵税金四錢」となっている。以上から、この史料は大正二年三月に印刷・發行された、「大正元年十一月」制定の同校規則ということになる。

表に印刷されている「正則英語學校規則」は全二十九條で、「(一)目的」「(第一條)」、「(二)學級」「(第二條)」、「(三)學年及學期」「(第三條・第四條)」、「(四)入學、在學、退學」「(第五條から第十四條迄)」、「(五)試験」「(第十五條から第十七條迄)」、「(六)學資」「(第十八條から第二十一條迄)」、「(七)生徒心得」「(第二十二條から第二十九條)となつている。この規則以外に、表には、「入學願」、「履歷書」、「在學證書」、「授業料猶豫願」の書式及び「本校講師」(いろは順)の人名・肩書が印刷されている。

「正則英語學校規則」で最も注目すべきは「(二)學級」(第二條)で

あり、「午前部」、「午後部」、「夜間部」が置かれており、「午前部」、「午後部」及び「夜間部」の全ての「科」の夫々の内容が掲げられており、概括的に言えば、「午前部」は英語初修者向け「豫備科」、「中學校相当」英語習得の「普通科」、中學校卒業で上級學校受験者向けの「普通受験科」及び「臨時受験科」という構成で、「午後部」は「中學生徒ノ英語」を復習する「中學補習科」を除けば、中學校卒業を前提とした高等教育の諸學校受験者向けの「高等受験科」、「文學科」、「中學校英語科教員養成科」、「正則補習科」という構成で、「夜間部」は英語初修者向け「豫備科」、「中學校ノ相当」英語習得の「普通科」、「中學校卒業程度ノ學生」向けの「英語補習科」、「正則補習科」終了者及び同程度者向けの「高等科」という構成となつてゐる。結論的に言えば、「正則英語學校」は中學校ではなく、中學校の英語と同程度及びそれ以上の高等な英語の教育を施す學校であるというのが、その本質である。この

点は、先に掲げた『官報』掲載の同校の広告の内容からも再確認出来る。また、裏には「各學級學科課程表」という表題が付けられ、枠内に「午前部」、「午後部」及び「夜間部」の全ての「科」の全学年に関する要覽（學習項目・教科書）が印刷されており、「午前部」の授業時間は「自午前八時至正午十二時」、「午後部」の授業時間は「自午後一時至午後五時」、及び「夜間部」の授業時間は「自

午後六時至午後九時」とされている。世耕弘一先生は「専門學校入學者檢定」の受験勉強の為に同校で学ばれ、当時は合格者が非常に稀とされた「専門學校入學者檢定」の試験に合格されたということになる。

II. 樟蔭高等女學校の

「設立ニ関スル書類」（學校法人 樟蔭学園所蔵）について

近畿大学の前身校である日本大學専門學校の設立認可書のオリジナルは、これまでの調査で発見出来ていないが、同じ大阪府田中河内郡で設立年が近い樟蔭高等女學校は戦災を蒙っていないようなので、同校の設立認可書は現存すると判断し、大阪樟蔭女子大學「100周年記念事業本部」に調査を申し入れ、平成二十九年三月九日に大阪樟蔭女子大學事務室で調査を実施した。樟蔭高等女學校の「設立ニ関スル書類」を同室で閲覧させて頂いた。その内容については割愛するが、この書類に包摂される設立認可書やそれに付随する文書を厳密に検討した結果、現存しない日本大學専門學校の設立認可書の内容等を推察する上で、大いに参考となつた事だけを、ここでは申し述べ、且つ大阪樟蔭女子大學「100周年記念事業本部」に謝意を表したい。

III. 近畿大学の前身校に関する

史料について

近畿大学の前身校である「日本大學専門學校」の設立の経緯を、国立

公文書館所蔵の簿冊「大阪専門學校 大阪 第5の1冊」(文部省④) 排架番号: 3A・10-9・1611) 収録の一次史料である公文書やその他の可信性の高い史料に立脚して、既に解明する事が出来た。今回は、この「日本大學専門學校」から近畿大学に至る極めて複雑な歴史を、関係一次史料等を踏まえて、概観した結果を報告する。

当該時期の前身校の一次史料である関係公文書が収録されている国立公文書館所蔵の簿冊としては、次のものを挙げる事が出来る。

I 「自昭大正15年2月至昭18年2月 大阪専門學校 第109冊」(分類: 文部省④) 排架番号: 3A・9-3・213)

II 「大阪専門學校 大阪 第5の2冊」(文部省④) 排架番号: 3A・10-9・1612)

I・IIの簿冊に収録されている諸公文書から当該時期の前身校の歴史を概観すると、刮目に値するのは、次の三つのエピソードである。

- ① 「日本大學専門學校」から「日本大學大阪専門學校」への名称変更
- ② 「日本大學大阪専門學校」の設立者の「財團法人日本大學」から「財團法人大阪専門學院」への変更
- ③ 「日本大學大阪専門學校」から「大阪専門學校」への名称変更

I 収録の第六文書群が①に関する公文書であり、同じくI収録の第七文書群は複雑な構成で多数の文書を包摂しているが、その中に②につ

て言及された文書が存在している。II収録の第六文書群が③に関する公文書である。

また、昭和十四年四月四日刊行の『官報』第三六七二號掲載の「文部省告示第百九十八號」が①に関するものであり、昭和十四年十二月二十九日刊行の『官報』第三八九五號掲載の「文部省告示第四百六十六號」が②に関するものであり、昭和十八年三月十六日刊行の『官報』第百四八五〇號掲載の「文部省告示第百五十四號」が③に関するものである。

Iの第六文書群の冒頭の公文書は、「大專三六號 裁決定3月31日 送達3月31日」とされ、「日本大學専門學校ヲ日本大學大阪専門學校ト改稱ノ件」と「學則中変更ノ件」の「指令案(案ノ一)」とその「告示案(案ノ二)」等から成つており、「備考」として記された「改正ノ理由」には「校名改稱」の理由は「東京所在ノ日本大學専門部ト同一」とされたり「日本大學専門部ハ本校ナリト誤認」され不都合が生じている事が挙げられている。この公文書の末尾には「◎本件認可指令書ハ大阪府經由發送ノコト」と付記されている。先に触れた「告示案(案ノ二)」通りの「文部省告示第百九十八號」が昭和十四年四月四日刊行の『官報』第三六七二號に掲載され、同年三月三十一日に認可された事が告示されている。

I収録の第七文書群の冒頭の公文書は、「大專五號 裁決定2月14日

送達二月十四日」で、「日本大學大阪専門學校設立者」の「財團法人大阪専門學院」に対する「理學科ヲ新設スル件ニ伴フ」申請學則變更認可」の「指令案」であり、この第七文書群の他の公文書から推察すると、この当時、「財團法人大阪専門學院」が「日本工學校」(昭和十二年一月設置)及び「日本工業學校」(昭和十四年一月設置)の設立者變更も申請しており、その結果、同法人の所轄局に文部省内の専門學務局がなるか、實業學務局がなるかで、両局間に厳しい対立が起こっていたのである。この第七文書群に収録されている「財團法人大阪専門學院及日本大學大阪専門學校ノ所管局ニ関スル件 経過概要」なる文書の「第一法人設立」で、それが非常に詳細に報告されている。これに依れば、實業學務局は日本工業學校設置認可の際に日本大學から独立した法人設立の条件を付していたので、法人設立には賛成であるが、その法人は實業學務局で受理してその所管とすべきと主張した。専門學務局・實業學務局は夫々過去の事例を挙げたりして、所管について「容易ニ諒解に至ラズ」。結局、「實業學務局長ハ所管問題ハ後日審査會決定ニ依ルコトヲ條件トシテ許可案ヲ承認セラレ書類ハ文書課ヲ經テ次官ニ提出セラレタリ」。「斯クシテ十二月二十七日次官ノ決裁モ済シ同日指令發送セラレタリ」。

かくして、大阪専門學院が設立者

として認可された結果、同學院側は法人認可申請を行い、文部省側は同學院を設立者として認可した旨を公示する事になる。

後者は昭和十四年十二月二十九日刊行の『官報』第三八九五號掲載の同月二十九日付けの「文部省公示第四百六十六號」であり、「日本大學大阪専門學校」及び「日本工業學校ノ設立者」を「昭和十五年一月一日ヨリ財團法人大阪専門學院ニ變更ノ件昭和十四年十二月二十七日認可セ

登記番號 第八號

登記ノ年月日 昭和十五年正月拾貳日登記 印
及ビ登記官印 第八欄マテ

- 一 名稱 財團法人大阪専門學院 (財團法人)
- 二 事務所 布施市大字小若江參百貳拾壹番地
- 三 目的 本法人ハ専門教育、實業教育
其他ノ教育事業ヲ爲ス目的トス
- 四 設立許可ノ年月日 昭和拾四年拾貳月貳拾七日
- 五 存立期間
- 六 資産ノ總額 金百拾六萬八百五拾九圓九拾五錢
- 七 出資ノ方法 寄附
- 八 理事ノ氏名、住所 東京市澁谷区神泉町貳拾番地
山 岡 萬 之 助

大阪市東区博労町貳丁目六拾八番地
小 野 村 胤 敏
大阪市西区土佐堀通壹丁目八番地
深 川 重 義

九 解散ノ原因及ヒ年月日

十 精算人ノ氏名、住所

豫備 學校法人への組織変更により布施市小若江

參番貳拾壹號學校法人近畿大學設立

登記を為したるにより登記用紙を閉鎖す

昭和貳拾六年參月貳日登記

印

(後略)

リ」というものである。

前者を、多大な時間・労力を費やして、博搜した結果、漸く大阪法務局東大阪支局に於いて見出す事に成功した。その史料が収録されているのは、「大阪區裁判所玉川出張所」からの引継文書で、「法人登記簿 第壹冊 大阪區裁判所 玉川出張所」なる簿冊である。そこに収録される第八文書が「財團法人大阪専門學院」に関するものであり、そこには次の様に記載されている。

この公文書が一次史料として重要な意義を持つ事は言うを俟たない。特に次の三点は刮目に値する。第一に前述の學校の設立者として「財團法人大阪専門學院」の設立許可の年月日が「昭和拾四年拾貳月貳拾七日」である事、第二に「財團法人大阪専門學院」の登記日が「昭和拾五年正月拾貳日」である事、第三に同法人の設立時の理事が山岡萬之助・小野村胤敏・深川重義である事である。

IIの第六文書群の冒頭の公文書は、「大專八號 裁決定三月五日 送達三月十三日」で、「財團法人大阪専門學院」に対して、三月十二日に「日本大學大阪専門學校ヲ大阪専門學校ト改稱ノ件認可ス」という「案ノ一」とその「告示案」の「案ノ二」であり、備考には「理由」として「日本大學大阪専門學校ナル名稱」は「財團法人大阪専門學院ニテ經營」するようになつても「以前ノマクニテ變更セズ種々支障ヲ生ジ来リタリ、(中略)コクニ名実共ニ一致セル大阪専門學校ト改稱セントスルモノナリ」となっている。その結果、昭和十八年三月十六日刊行の『官報』第四八五〇號には「案ノ二」の「告示案」通りの「文部省告示第百五十四號」が掲載され、同年三月十二日に認可された事が告示されている。

以上の様な一次史料に立脚した厳密な実証的考察から、当該時期の前身校の歴史の第一のエポック①は昭和十四年三月三十一日であり、第二

のエポック②は昭和十四年十二月二十七日であり、第三のエポック③は昭和十八年三月十二日である、と結論付ける事が出来るのである。

今回の報告を閉じるにあたり、次の点を指摘しておきたい。①及び③の名称変更の理由は、名称から惹起する学校事務の現場に於ける混乱・不都合であった事が分るが、②の設立者変更の積極的理由は先に取り上げた公文書からは判然としない。この点については、日本大学が大阪の

学校に対して如何なる経営戦略を持っていたかを解明する事によってのみ認識出来るのである。幸いにして採取し得た「大正十五年九月」の「大阪財團決裁 日本大学」と題する当時の同大学の理事会の決裁書、昭和十一年十一月三十日付の「教育ヲ目的トスル財団法人設立ノ爲メニスル財産移転ニ關スル契約公正証書謄本」を解読するのに成功し、そこに認識の鍵を見出したので、今回はそれに関して報告する予定である。

近畿大学を巡る史資料 8

『校門学報 文芸号』
(一九三八年) 1

教職教育部教授

建学史料室研究員 富岡 勝

今回紹介するのは、昭和十三年(一九三八年)二月に日本大学専門学校(布施市小若江)の第二部学友

会文芸部から発行された『校門学報 文芸号』である。桃山学院史料室の所蔵史料である。本誌第一九号(平成二十七年九月)では、昭和六年(一九三一年)五月に同校文芸部から発行された『小若江文学』を紹介した。今回は第二部の文芸部の刊行物で、時期も少し後のものである。

現在在学の本学の東大阪キャンパスとなっている小若江の地に大正十四年(一九二五年)につくられた日本大学専門学校における学生文化の史料は、本学の歴史を振り返る上で、何らかの示唆を与えるのではないかと考えている。



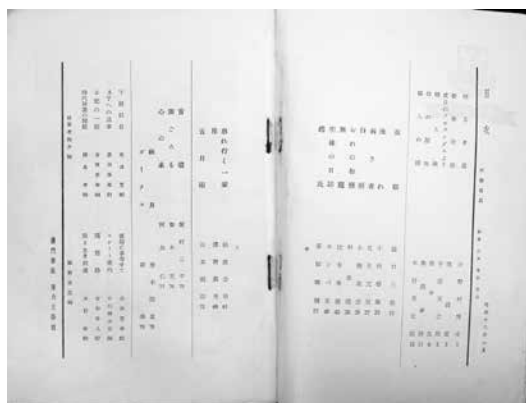
表紙写真

編集・発行者と目次

本誌の基本情報を確認しておきたい。B6サイズの活版印刷による刊行物であり、奥付によると、編集兼発行者は、布施市小若江日本大学専門学校内の山本淑郎(第二部学友会幹事長を務めた学生。詳細は後述)となっている。発行所は前述の通り、日本大学専門学校第二部学友会文芸部である。

目次の内容は以下の通りである。

明るき道	小野村博士
新春所感	坂 鐸 堂
或る日のメモランダムより	宇治京之助
糊と鉢	松 本 生
母の認知	柳 瀬 兼助
接人の弁	木村秀太郎
故郷	樋口 三郎
流れ	小林 善雄
弱き者	五月 元児
白雨	小柳 高志
おのれの初恋	林 泉 造
無題	辻木 秀雄
生徒の日記	カンペ 生
趙氏	原田 輝親
崩れ行く一家	仙波 公明
崖	澤野 義男
五月雨	山本 淑郎
首環	紫村 三平
旅ごろも	春木 元
心の糸	阿加 仁
秋月	榎本 陸堂
ボーナス	萩 満
下級社員	向井 寛
A子への返事	森田 保雄
日記の一節	吉岡 秀雄
時代映画の転廻	國島 孝
直線に事寄せて	赤西 朝雄
スケート案内	中川弁左右
独語録	古野 伶人
限りなき前進	矢野 彬
執筆者紹介	
編輯後記	



目次

執筆者について

本誌には執筆者紹介があり、本名が確認できる。例えば最初の六編の執筆者は、いずれも教員である。小野村博士は学校長・学友会長の小野村胤敏のことであり、続く五名は坂讓、宇治伊之助、松本正一、柳瀬兼助、木村秀太郎で、いずれも教員である。旧制中学校の校友会雑誌を見てみると、昭和十二年の日中戦争後の頃からは、教員が執筆する記事には戦時色を反映した訓示的な内容が目立つことが多いが、本誌の教員執筆記事は、戦況について触れた「新春所感」以外は、法学、日常生活、人生感などに関する随筆であり、戦時色はかなり薄いという印象をもった。樋口三郎以下の執筆者は、ほとんどが文芸部関係の学生(一名のみ前年の卒業生)で、戯曲、小説、映画シナリオ、詩作、映画批評、随筆な

どが掲載されている。

編集後記では、「本誌はそのタイトル」の如く文芸に属する原稿を主として募ったのでした。しかし今度は何分初めての試みであり、年末年始のあはただし中、それに日限もやや短かつたので内心少々不安に思ってしまったのです。ところが結果は予想外のかくの通り、素晴らしい成績で最近稀なる豪華文芸陣であります」と書かれていることから、本誌は、『桜門学報』初めての試みとして、文芸作品を中心に編集されたものであることが分かる。

また執筆学生には、弁論部幹事や学友会総務なども含まれている。編集兼発行者の山本淑郎は第二部学友会幹事長であり、「学園のため、憎まれ役を自ら買ふ逞しさを持つ張り切り男、しかしまた反面第二部学友会幹事長の名をもつのを気にする心臓の弱い男でもある」と紹介されている。

活発な活動

編集後記には、昭和十二年度の二部文芸部の活動が次のようにまとめられている。

桜門学報四回（内雑誌体二回新聞体二回）日大新聞二回（一部二部共同文芸部参加）演劇試演会一回、写真展覧会（記念祭参加）文芸座談会二回、映画鑑賞会二回。ざっと以上で、経費の許す限りに於いて十二分の成果を収め得たと

思ひます。これも偏に部員諸君の協力の資であります。

本誌執筆者が少なくとも五名（山本淑郎を含む）含まれる第二部商科の昭和十三年（第十一回）卒業生は三十四名で、第二部法律科の同年卒業生が五十三名である（『近畿大学校友名簿』昭和四十六年二月二十八日発行）。一学年百名に満たない二部学生の間で、このような活発な文芸活動が行われていたというのは注目には値するのではないだろうか。

当時は、文芸部とともに弁論部、相撲部、陸上競技部、野球部、端艇部、乗馬部などの活動があった。小若江の地ではこの頃すでに様々な学生文化が開花しつつあったことがうかがわれる。

経営学部における 自校学習の取り組み事例報告

経営学部教授

建学史料室研究員 稲葉 浩幸

経営学部では、初年次教育の一つの展開として、自校学習に関する授業を基礎ゼミの時間を用いて行っている。しかしながら、入学して間もない新生は自校に対する学習意欲や学習動機が当然のことながら希薄である。そこで新生に近畿大学への愛校心を持ってもらうために、経営学部では各教員の創意工夫による

様々な自校学習プログラムを実践している。本事例報告は、こうした経営学部における自校学習の取り組みについて報告するものである。

経営学部での自校学習をおおまかに分類すると、以下のような三つのカテゴリーに分けることができる。

一つは自校学習を「人的な交流」によって実施していることである。その主なものとして、例えば近大OBで中村ブレイス株式会社の中村俊郎社長の人生から学ぶ自校学習DVD「近畿大学・卒業生編」の視聴や近畿大学人権委員会主催による人権講演会の聴講、また、現在すでに社会で活躍している近大の卒業生によるOB・OG講演会や三・四年生の上級生から学生生活についてのアドバイスなどを行う懇談会などが行われている。

さらに、経営学部では体育会に所属している学生が多数いることから、硬式野球部やアメリカンフットボール部、ラグビー部など様々なクラブの試合を応援するツアー（写真1参照）が毎年企画されている。

これまでも多くの基礎ゼミの学生たちがツアーに参加し、ともに応援することで近畿大学の学生としての一体感を得ている。

二つ目は、「学内施設を活用することによって自校学習を

行っていることである。具体的には

キャンパスツアーや図書館ガイド、アカデミックシアターガイダンス、語学センターや英語村、原子力研究所といった学内施設の見学を積極的に実施している。さらに、こうした学内の様々な施設を巡ってオリエンテーションを行っているクラスもある。このキャンパスオリエンテーションは、まず学生たちを三人くらいのチームに分けて、与えられた課題（写真2参照）についてチームで協力しながら、キャンパス内にある施設へ行って調べてくるというグループワークである。この体験を通じて、学生たちは広いキャンパスのどこにどのような施設があるのかを認識するとともに、お互いが知恵を出し合い、目標を達成することによって学生相互のコミュニケーションを図ることになる。

三つ目は、自校学習を「自校史から学ぶ」ものである。自校史を学ぶ材料としては、近畿大学の過去・現



写真1 硬式野球部応援ツアーのチラシ

★基礎ゼミ(椿木)★ キャンパスオリエンタリング♪ 教室に戻る時刻 14:10
 1 間 1 点 (戻る時刻を 1 分過ぎるごとにマイナス 5 点: 最下位チームは×罰ゲーム×)
 メンバーの名前 _____
 (5) は○をつけてください

(1) 椿木研究室の扉についての表示は現在、何になっている? _____
 (2) 20 号館 8 階の教員用メールボックスの左から 8 番目、上から 5 番目の先生の名前は?
 _____ 先生
 (3) 経営学部の間野賢先生と山藤正幸先生の研究室に挟まれた研究室の先生は?
 _____ 先生
 (4) 本館地下一階の KURE の W びっくりろんどは、_____ 円
 (5) 入学センター前の棚で、経営学部案内は _____ 右・左・中央 の _____ 上・中・下 にある
 (6) 経営学部の芳澤 輝泰先生と布施 匡章先生の研究室の間の研究室の先生は?
 _____ 先生
 (7) 建築学部の事務部があるのは _____ 号館 1 階
 (8) 法学部の事務部があるのは _____ 号館 1 階
 (9) 薬学部の事務部があるのは _____ 号館 1 階
 (10) 21 号館 806 教室が研究室の先生は _____ 先生 (フルネームで)
 (11) 理工学部教務課・事務室があるのは _____ 号館 1 階
 (12) 本館地下一階の KURE のピープカレは、_____ 円
 (13) イーキューブカフェの Regular size drink float は 428 まで _____ 円
 (14) 図書館四階の本棚で、「336.91 Ka59」の本の著者は、_____ 円
 (15) 「青い鳥」の「ハンバーグ定食」は _____ 円
 (16) 世耕弘一先生の銅像が建立されたのは昭和 _____ 年 11 月 5 日
 (17) 図書館四階の本棚で、「336.83 Su96」の本の編者は、_____
 (18) 21 号館 8 階事務室前の先生方の名札で、黄色は _____、白色は _____ を表す
 (19) 「青い鳥」の「たらこセット」は _____ 円
 (20) CNN Café の「アイスラテ」は _____ 円
 (21) 麺屋ボウルキッチンでは、麺と丼を購入すると _____ 円をセット割引してくれる
 (22) 31 号館 1 階にある飲食店の名前は? _____
 (23) 土曜日のキャリアセンター開室時間は 8:45 ~ _____ となっている
 (24) 麺屋ボウルキッチンの「本日のパスタ」の特盛りは _____ 円 (2.0 玉)
 (25) ALL DAY COFFEE の「NY.CHEESE CAKE スティックチーズケーキ」は _____ 円

(26) 図書館四階の本棚で、「336.1 Ta31」の本の共著者は、_____
 (27) 38 号館 1 階にある絵のタイトルは、川人 勝延 [_____]
 (28) 11 月ホール地下の 生協食堂の「特製 新近大唐揚げ」は _____ 円
 (29) 本館地下一階の KURE の「シェフのおすすめランチ」は _____ 円
 (30) 21 号館 _____ 階は 20 号館の 20-2 教室とつながっている階である
 (31) 立体駐車場・駐輪場のエレベーターの R の下の階数は? _____ 階
 (32) 学内にあるキリンの自動販売機には、文芸学部の学生デザインのものがあり、
 大阪城と _____ と _____ が描かれている
 (33) 経済学部事務部があるのは _____ 号館 1 階
 (34) 総合社会学部事務部があるのは _____ 号館 1 階
 (35) GREEN SIDE CAFÉ の「チーズカレーオムライス」単品大盛りは _____ 円
 (36) 文芸学部事務部は _____ 号館 1 階にある。
 (37) BLOSSOM CAFÉ にあるモスバーガーの「まんぷくセット」は _____ 円
 (38) C 館 3 階には教室の他に _____ 研究室という部屋がある (トイレではない)
 (39) CNN Café の「TODAY'S FOOD」は 2BUY で _____ 円
 (40) C 館 1 階に展示されている「マグナ・カルタ」は _____ の複製版である
 (41) 「青い鳥」の「カルビ定食」は _____ 円
 (42) フィットネス施設 _____ (名前は 11 月ホールにある。
 (43) 本館地下一階の KURE の「かやくご飯 (単品)」は _____ 円
 (44) 11 月ホール地下の生協食堂の「味噌ラーメン」は _____ 円
 (45) 「青い鳥」の「カツサンドセット」は _____ 円
 (46) 11 月ホール地下の生協食堂の「ハヤシライス」は _____ 円。
 (47) イーキューブカフェの Special Sandwiches は Half が _____ 円、Whole は _____ 円
 (48) キャリアセンター掲示板によると学内推薦、香川銀行総合職の申込は 5 月 _____ 日まで
 (49) 図書館四階の本棚で、「335.1 Mi77」の本の編者は、_____
 (50) 図書館四階の本棚で、「336 Ki57」の本の著者は、_____
 (51) 21 号館 8 階事務室前の名札で中岡孝剛先生と山田雄久先生の間は _____ 先生
 (52) ALL DAY COFFEE の「ALL DAY DONUT ドーナツ」は _____ 円
 (53) 薬学部 1 階の掲示を見ると _____ は梅の未熟な実を黒くいぶして乾燥したもの
 (54) CNN Café の「CREPE モンブラン」は _____ 円
 (55) ALL DAY COFFEE の「TURNOVER PIE ターンオーバー」は _____ 円

写真 2 キャンパスオリエンタリングでの配布資料



写真 3 不倒館を見学している経営学部の学生たち

在・未来というテーマから作成された自校学習 DVD「近畿大学のあゆみ・発展史編」や『炎の人生』の活用のほか、体育会に所属する学生が多いことから校歌を練習するクラスもある。また、今年度経営学部の基礎ゼミにおいて利用が増加しているのが不倒館の見学である。不倒館は平成二十一年九月十二日に開設されて以来、すでに二万人を超える入館者数となっているが、ここで実際に不倒館を訪れた経営学部の学生達(写真 3 参照)の感想文の一部を紹介したい。

・私は世耕弘一先生の祥月命日に不倒館を見学しました。不倒館に入ると人力車や和歌山県熊野地方のジオラマ、世耕先生が残した言

葉などが展示されていました。また、職員の方から近畿大学の学園章のデザインの意味などを説明していただいたり、それは様々なことに挑戦する近畿大学をそのまま表しているなと感じました。

・私はこれまでの基礎ゼミの授業で『炎の人生』を読み、DVD鑑賞を通じて世耕弘一先生の生き様や学問に対する姿勢に感銘を受けました。また、不倒館へ見学に行き、実際に世耕先生の胸像や遺墨を直接見て、世耕先生の偉大さを感じる事ができました。

・不倒館を見学して思ったことは、近畿大学にこのような博物館みたいなところがあるのだと驚きました。不倒館には世耕弘一先生の胸像や肖像画、ジオラマ、掛け軸などいろいろな展示品があつて近畿大学の歴史を感じました。

・近畿大学を一から築き上げた世耕弘一先生の並々ならぬ建学への想い、それが詰まった不倒館を見学することができて良かったです。世耕先生の歩んだ軌跡をたどった感想はただただ世耕先生の凄さを実感させられるばかりでした。

・不倒館と聞くと少し堅苦しいイメージを持つかもしれませんが、実際はとても楽しいところでした。

た。不倒館内にある人力車は乗車することができ、基礎ゼミのみならずと人力車の周りで写真撮影ができて楽しかったです。

・不倒館に行つて、世耕弘一先生の歴史を今まで以上にたくさん知ることができました。世耕先生がどんな人生を歩んできたかを知ること、自分の学びたいことが学べる今の環境がどれだけ恵まれているのか改めて感じました。

・私は不倒館のことを全く知りませんでした。職員の説明を聞いて不倒館は近畿大学の創設者であり、初代総長の世耕弘一先生が掲げた建学の精神や教育への情熱を形あるものとして、後世に残し伝えていくために創られたことがわかりました。

・近大生はまだまだ世耕弘一先生のことを知らない人が多いと思います。三回生の先輩でさえ、「不倒館って何?」と言っています。私は基礎ゼミで不倒館を見学しましたが、少しでも世耕先生がどんな人だったのかを他の学校の人に話すことができるような近大生が増えるといいなと思いました。

以上、甚だ簡単にはあるが、自校学習の取り組みについて経営学部事例を紹介してきたが、近畿大学

は八年後の二〇二五年に創立百周年の節目を迎えることになる。この記念すべき創立百周年に向けて、現在「近畿大学一〇〇周年誌」の編纂が学内外の協力を得て進められている。また、経営学部としての歴史を振り返ると、二〇〇三年の商経学部改組から数えて二〇二三年には二十周年を迎える。さらに、一九四九年の商学部設置から考えると二〇一九年には七十周年を迎えることになる。これらの節目となる年に向けて、今後、経営学部を挙げてさらに自校学習を発展させていきたいと考えている。

寄贈紹介

60年前の制帽ミニチュア

松村鈴子さんから

六十年前製作の近畿大学制帽のミニチュアが、平成二十九年三月十三日、近畿大学職員の松村鈴子さんから寄贈されました。

横幅約十二センチ、高さ約七センチ、内周約二十センチの制帽は、帽章や耳章、庇、調節可能な革製のアゴ紐まで、精巧に製作されています。裏面も同様に、裏地、腰芯、ビン皮がていねいに施されており、その完成度の高さからこの帽子に込められた愛着が感じられるようです。

これは、近畿大学東大阪キャンパ



寄贈された近畿大学制帽のミニチュア（昭和三十二年頃製作）

スのすぐ近くで製帽業を営み、近畿大学の制帽も手がけておられたご尊父の松村良雄氏が、昭和三十二年頃、材料の残りを使って作られた、一つしかない近畿大学制帽のミニチュアです。

新宮室員研修報告

建学史料室のみなさんを

新宮にお迎えして

近畿大学附属新宮高等学校・中学校
校長 川合 廣征

平成二十九年三月二十七日（月）二十八日（火）、建学史料室のみなさんをお迎えし、世耕弘一先生の足跡を学んでいただきました。本校到着後、校内を見学していただ

ミニチュアです。そのわずか三年後に三十三歳の若さで他界されたご尊父の形見として、ご自宅で大切に飾ってこられました。

松村さんは、不倒館を見学した際に、大阪専門学校時代の制帽（昭和二十六年三月卒業の藤本和正氏ご寄贈）が展示されているのを見て、「こうして世耕弘一先生の記念室で、皆さんに見ていただけたら、父もきっと喜ぶでしょうし、私自身も今年（平成二十九年）三月で退職するにあたり、大学に貢献できれば、記念にもなるのでは」と、ミニチュア制帽のご寄贈を思い立たれたといえます。

歴史が感じられる大阪専門学校時代の制帽に併せて、手のひらサイズの愛らしい制帽も、多くの不倒館来訪者の皆様に親しまれています。

き、前校長 橋本昭彦先生から「世耕弘一先生の魂にふれる」という演題で、約一時間のお話をお聞きいただきました。

その後、建学史料室の皆さんによる学習会、懇談会が行われました。懇談会には、前校長 橋本昭彦先生と私も参加させていただきました。「本校を取り巻く教育環境」「自校教育における本校の取り組み」「世耕弘一先生の御命日に行う本校教職員による墓参」などについてお話をさせていただきました。

翌日は、新宮市熊野川町西敷屋にあります世耕弘一先生のお墓をお参



「世耕弘一先生の魂にふれる」について講演中の橋本昭彦先生（当時顧問）

りいただき、生家の見学、生家周辺を散策していただきました。その後、旧市内に戻り、世界遺産 熊野速玉大社周辺を散策していただき研修を無事終了いたしました。

今回、建学史料室のみなさんをお迎えし、世耕弘一先生の生誕地にある学校として、世耕弘一先生の「教育にかける思い」「偉大さ」を守り、受け継ぎ、そして伝えていかなければならない責任を再認識いたしました。

その責任を果たすべく、御命日には本校教職員による募参を行って

ます。また、中学一年生で取り組む郷土の学習においては、世耕弘一先生

の生い立ちを学び、世耕弘一先生の銅像・自筆の書の見学を行って

います。高校二年生の総合学習(グループによるプレゼンテーション)では、

「世耕弘一先生の生い立ち」「本学園の建学の精神」「世耕弘一先生と新

宮市」「世耕弘一先生の有名なお言葉『海を耕せ』』などのテーマが与

えられ、生徒たちによる「調べ学習」「パワーポイントの作成」「発表」と

いう活動から世耕弘一先生の偉大さ素晴らしさを学んでいます。

私たちは、世耕弘一先生の教え、「人に愛される人 信頼される人

尊敬される人になろう」という校訓の実践と世耕弘一先生の教育に

かけた熱い思いにお応えできるよう一層努力してまいります。

新宮研修を終えて
短期大学部教授
建学史料室研究員 井田 泰人

新宮へは二度目の訪問である。一度目は四半世紀前、学生の時で所

属していた故作道洋太郎先生のゼミの旅行で訪れた。確か勝浦のホ

テルで宿泊し、翌日新宮に移動したと記憶している。当時は新宮駅

を出てすぐのところに世耕弘一先生

の銅像が設置されていた。作道先生は当初、世耕弘一先生のお墓

に行く予定を立てられていた。ど

ういう理由かは失念したが行かずに終わった。

大学三年生の時に、作道先生からお借りした世耕弘一先生ご執筆の『山は動かず』を読んで非常に感銘

を受けた。人生を変えた一冊であると言っても過言ではない。弘一先生

は、ご兄弟が多く、早くから奉公に出

て、独力で生活していかなければならないという「自立心」をお持ち

になっていった。また、働きながら専検を突破され、日本大学へ入学され

たこと、言葉が不十分な状態でドイツに留学され、最終的には大きな成

果をあげられたこと、こうした一つの目標を達成すると、さらに大きな

目標を設定し、それを越えようとする「向上心」というものを強く感じ

た。これら二つの「心」を同書から学び、私自身も忘れないようにして

きた。

二度目の新宮となった今回は、建学史料室の研修という形であった。

近畿大学附属新宮高等学校・中学校、水産研究所新宮実験場、世耕先

生の御生家、墓所、西敷屋小学校など、なかなか行くことのできない弘

一先生ゆかりの場所への見学が企画されていた。私の場合、特に学生の

時になかなかできなかった、弘一先生のお墓参りができるといふことで非常に

強い喜びを感じながら参加を申し込んだ。

新宮駅到着後、まず、弘一先生の銅像を探したが、今は別の場所で保管されており、二十五年ぶりの「再

会」とはいかなかった。この点は非常に残念であった。集合時間となり、新宮高校・中学校へ移動し、橋

本昭彦先生のご講演を聴講させて頂いた。改めて弘一先生の研究者、教

育者、政治家としての情熱を確認できた。また新宮高校・中学校内を見

学し、弘一先生の生家への郷土愛も深く知ることができた。両校の先生

方が弘一先生の教えをよく守られ、生徒に伝えられておられることもわ

かった。

翌日、バスで水産研究所の新宮実験場へ移動し、施設の概要・淡水魚

養殖について研究員、職員の方々にご説明頂き、場内の見学をさせて頂

いた。その後、弘一先生の御生家と墓所のある西敷屋へ移った。周辺の

のどかな風景を眺め、「この地から先生は大きな志を抱き羽ばたかれた

のか」と感慨深くなった。念願のお墓参りについては、文献を通してで

はあるが、弘一先生から頂いた数々のご教示に対して「お礼を申し上げ

たい」との気持ちが強かったし、お教えいただいたことに対して、「終

生守り通します」との誓いもしたかった。今回、それらを実現できた

ことは本当に嬉しかった。新宮研修を企画して頂いた建学史料室の職員

の皆さまと関係者の方々に対して貴重な機会を頂いたことに深謝したい。

附属小学校五年生が不倒館へ

ー東大阪キャンパス 見学の二環ー

本学附属小学校五年生が平成二十九年六月十四日、不倒館を訪れました。

附属小学校では毎年、五年生の行事として、大学東大阪キャンパスを訪問。大学施設の見学をはじめ、学生食堂での昼食、クラブセンターの五十メートル屋内公認プールでの水泳授業などを実施しています。

キャンパス内の学生の中には、手を振ったり、優しく声がけをしてくれる附属小学校の先輩たちの姿もまた、熱心に学んだり、友人とくつろいだりと、楽しそうな学生生活のようすを目の前で見て、附属学校ならではのつながりが実感できる機会にもなっているそうです。

この日は、英語村や不倒館、本年四月にオープンしたばかりのアカデミックシアターをクラスごとに見学していました。

不倒館では、展示品に興味津々。担当職員の説明に耳を傾け、手を挙げて積極的に質問していました。また、どの児童も、元気に挨拶をして入退室する姿が大変印象的でした。

帰校後に「近畿大学を見学して」というテーマで書かれた感想文がこのほど、建学史料室に寄せられました。以下、紹介します。

「いろいろな建物があった大学」

五年松組 稲垣 陽香里

私は、大学の中で一番印象に残ったことは、アカデミックシアターです。なぜなら、たくさんの本があって、種類もいろいろあったからです。その本の中には、大きな図かんやシリーズ本が部屋ごとにたくさん置いていて、近小の図書室と比べて大きく、本の数がすごく多いなあ、と思いました。他にも、不倒館では、近畿大学をつくった世耕先生の愛用していたものや、大きなジオラマがありました。世耕先生は知っていたけれど、その他のことは全然知らなかったもので、知れてよかったです。そこで知ったことは、世耕先生は一等のくん章をもらったということと、池袋にある先生の家は広かったということです。私もあれだけ広い家に住みたいなあと思いました。他にも、建物がたくさんあって、すごく大学のはん囲が広がったので、初めて来たときも広すぎてびっくりしました。また行けたら行きたいです。

「近大を見学して」

五年松組 大上 真里安

私は、近大を見学して、その中でも、アカデミックシアターが本がたたくさんあっていろいろな種類の本があったので、全部の本を読んでみたいなどと興味関心を持ちました。他に、英語村にも行きました。英

語村では、イギリス人のマークさんとカナダ人のジルさんに出むかえてもらって、英語を楽しく覚えられたし、ギターなどのチャレンジをすることができたので、とてもうれしかったです。

あと、不倒館へも行きました。不倒館は、世耕先生の歴史や、近大の歴史などが分かる所で、おどろいたのは、近大のマークが昔とことなることです。昔と同じように今も、梅の花のマークが近大に残されているのでよかったです。

高校生になったら、受験で近大も受けてみたいと思います。特に、研究室っぽいところが好きになりました。

「近大を見学して」

五年松組 加茂 凌

まず、ぼくはアカデミックシアターに行きました。ふつうの図書館なら、しゃべってはいけないけれど、アカデミックシアターはしゃべって良いとっていたのでおどろきました。中では厚い本がたくさんあり、さすが近大だなと思いました。

次に、不倒館に行きました。近小マークがつながっていないのはなぜかという質問に答えることができませんでした。人が車にも乗ることができました。ジオラマでいかだが動いていたのすごいなと思いました。世耕先生のごいなど知れて良かったです。

最後に、英語村に行きました。外国人の人がみんなを盛り上げてくれました。ギターの体験を一番最初にできて心に残りました。なぜか英語村が一回見たような気がしました。ぼくはこの一日でとても知識が豊富になりました。でも、まだまだ知らないことはたくさんあります。



「近畿大学の見学」

五年松組 寺村 仁

はじめにアカデミックシアターに行きました。歴史の本やスポーツの本、英語などいろいろなものがたくさんあり、小学校の図書室とはちがう楽しそうな図書館だな、と思いました。

次に不倒館に行きました。世耕弘一先生がなさったことや近畿大学を創立されたことなどいろいろなことを知れました。世耕先生はすごいなと思いました。なぜならいろいろなことをなしてあげているからです。もっと世耕先生のことを知りたいです。

最後に英語村に行きました。英語村のことをいろいろ教えてくださって、時にはみんなが笑えることもいってくれたのでおもしろかったです。

いろいろな所について、近畿大学のことや世耕弘一先生のことやたくさん知れました。また行ってみたいです。

「だれもが行きたくなる近大」

五年松組 中垣 百華

六月十四日、私は初めて近大に行きました。テレビの天気予報などに映っているのを見て、行ってみたいなあと思っていました。一番はじめにアカデミックシアターに行きました。ノア、ドンデン、本がたくさんあって、おしゃれでした。

次に不倒館に行きました。そこで世耕先生の遺品を見たり、人力車に乗りました。私がそこで印象に残った事は世耕先生が勲章をもらっていた事です。私のひいおじいちゃんも戦争に行った時にもらっていたからです。

最後に英語村に行きました。外国人と話し、とても楽しい一日がすぎました。

プールでも水がかがやいて泳ぐのが楽しかったです。家に帰って、ふりかえってみると、私はずっと「すごい」と言っていました。それだけ近大はすごいです。本当にありがとうございました。

「大学のいいところ」

五年竹組 茨木 紗恵

近畿大学の人はとても笑顔で楽しそうです。素晴らしいな、と私は思います。そして楽しそうなのは、この近畿大学がとてもいい場所だからだと思います。

そう思った一つ目の理由は、大きな大きなアカデミックシアターがあるからです。アカデミックシアターは夢がいっぱいつまっています、私になりたい医者の方野も入っています。そのほか自習室もあり、とても勉強がはかどりそうです。そして、おどろいたのは、本が七万冊ということなんです。それにはとてもびっくりしました。

二つ目の理由は、英語村があるからです。英語村はとても明るくて、元気が出ます。それと同時に、英語も覚えられるのです。そして、

最後にいった不倒館でも世耕先生のことがよく知れました。そして、レアな物もたくさんありました。

このようなしせつがあるからではないかと思えます。私は近大に入りたいです。

「大学見学」

五年竹組 宗像 将司

十四日に近畿大学に見学に行きました。ぼくが一番見て、面白そうだなと思ったのは不倒館です。なぜな

ら、世耕先生の私物やくんしようをもらった時の服や人力車があったからです。不倒館に行くと、世耕先生の声や銅像が見ることができたのでとても大きな体験が出来てよかったです。

他にもアカデミックシアターに行きました。アカデミックシアターの二階の名前が「ドンデン」という名前だったのでどういう意味なのかなと思っていたら職員の方から、どんでん返しをするという意味だと聞いてよくわかりました。一階の名前を「ノア」というので、これは箱船という意味だそうです。アカデミックシアターにはマンガがいっぱいあってすごかったです。

英語村でも楽しく英語で会話できて、面白かったです。

ぼくは近畿大学の見学を通じてより近大のことが好きになったので、近畿大学に入学したいなと思いました。近畿大学の見学で色々なことを学んだので、これからの学習に活かしていきたいです。

「楽しかった近大」

五年竹組 村上 娃

私達は、まず始めにアカデミックシアターを見学しました。私は、そこでおどろいた事があります。それは、ふたがついていると飲み物を飲んでもいい所です。なぜなら私が知っている図書館は、飲み物を持ちこむのが禁止だからです。そして次

におどろいたのは、一階と二階にノアとドンデンという名前が付いていたことです。なぜなら私は図書館で一階と二階に名前が付いているのは初めて聞いたからです。

次に行ったのは英語村です。私がいかなと思った所は、みんなが楽しみながら英語を学ぶということなんです。私は英語が苦手なので楽しそうだなと思いました。

そして、次に行ったのは不倒館です。そこで興味を持ったのは始めに聞いたお話です。世耕先生が、私達ぐらいの年れいでいかに乗ってお仕事をしていたことです。なぜなら昔はまずしい家が多く、食べるのもせいっぱいだったもので、働いていたのかなと思えました。そしてよく見ていると、見覚えのある物がありました。それは、「山は動かず」というマンガです。私は前から興味を持っていて何度か読み返していたからです。

私は、近大の力がこの見学でも分かりました。なので、この見学を楽しみながら回ることが出来たので、近大に入ってみようと思えました。

「心に残った大学見学」

五年竹組 山口 和奏

昨日、初めて近畿大学に行きました。思ったよりすごく広かったです。おどろきました。初日だったため、大学の方々が三つの場所を案内

してくださいました。

初めに「アカデミックシアター」という図書館を見学しました。二階にもわたる大きな図書館で、たくさん本の棚に色々な種類の本がぎっしりつまっていました。本は読めませんでした。しかし読めたらわくわくすると思います。

次に「英語村」という世界各国からいらした外国の人がいるところに行きました。その中でもマークさんは明るくて、楽しい人でした。家があやめ池にあると聞いた時は、びっくりしました。

最後に「不倒館」という近畿大学をつくった世耕先生のこと学べるところに行きました。そこには、人力車や世耕先生の家のジオラマなどがありました。人力車にも乗せていただき、き重な体験になりました。私はこの大学見学を通して、色々なことを学びました。なので、今までで一番心に残った大学見学でした。

「近畿大学見学と大学プール」

五年竹組 山田 真子

わたしは、近畿大学の不倒館が一番おもしろかったです。なぜなら、世耕先生が大事にしていた物や、人力車も見れ、人力車に乗って写真もとってもらった事ができたからです。世耕先生が大事にしていた物で一番すごいと思ったのは、世耕先生が本当に着ていた服や、ぼうしが見れたことです。

アカデミックシアターも行ききました。わたしが読んでみたい本が色々あり、知らない本も沢山ありました。英語村にも行きました。外国人の人は、とても発音がよかったです。外国人の人の名前を覚える事がむずかしかったです。舌をかんで息だけ出す発音があったからです。

五時間目と六時間目はプールでした。初めて大学のプールで泳いだのでとても深くてびっくりしました。でも泳げたのでおほれませんでした。来週もがんばって泳ぎたいです。

「すごい近畿大学」

五年梅組 上西 七枝

まず、大学に行つて思った事は、「校舎が洋風でオシャレだな。」です。私は、大学に行つたことがなく、「どんな所かな？」と大学に着くまで、待ち遠しかったです。

初めに、大学に着くと不倒館に行きました。不倒館は、世耕弘一先生の一生や、どのようにして近畿大学をつくられたのが、説明されていました。近小ののマークは、なぜ上の所が開いているのかを教えてくださいました。

次に、英語村に行きました。木でビルができていてアメリカっぽかったです。全員外国人のネイティブスピーカーの先生でした。アメリカ人の先生は、あやめ池に住んでいるそうです。

最後にアカデミックシアターに行

きました。小学校で言う図書館のような所でした。ジャンルもばらばらでまん画もあれば哲学などもありました。私も「近畿大学に行きたいな。」と思いました。

「楽しそうな近畿大学」

五年梅組 久保田 珠莉

私は、近大の見学で、まず不倒館に行きました。

不倒館では、最初に人力車の説明で、最初の近大マークと今の近大マークが違うということを教えてもらいました。今の近大マークがなぜ、くっついていないのかも教えてもらい、初めて聞いたので、おどろきました。また、くんしょうも、見た時、重そうだなと思いました。

次に、英語村で、英語村では何をするのかを聞いた時に、楽しそうだなと思いました。

アカデミックシアターは、約七万冊の本がありました。中でも、一階と二階に分かれていて広いなと思いました。その上、七万冊もあるのに、何日いてもあきないし、広いから迷いそうとも思いました。受付の横には、ロボットがあつておもしろかったです。自習やパソコン室もあつて、設備がすごいなと思いました。

最後に食堂に行きました。定食でも、五百円以内なので安いとおどろきました。

大学にもし行くなら、近大も良い

なと思いました。

「近大の見学」

「近大は大きな一つの家族」
五年梅組 陳 昶安

ぼくは、六月十四日に近大を見学しました。はじめに、不倒館に行きました。不倒館には、世耕弘一先生の資料がたくさんありました。とても大きい人力車もありました。乗ってみると、すごく座席がふわふわしていました。

次に、英語村に行きました。中では、英語しか使えないので、ぼくはさすがに入れないなと思いました。英語村には、ゲーム、ギター、バスケットボールなどができるので、大人になつたら来てみたいです。

最後に、アカデミックシアターに行きました。七万冊もありました。漫画だけで二万二千冊と言っていたので、大学にも、漫画は意外と多いなと思いました。

近大に行つてみて、大学は自由だなと思いました。近大の学生さんも手をふってくれたので、「近大は大きな一つの家族」だなと思いました。もう一回来てみたいです。

「初めての近畿大学見学」

五年梅組 中西 佑介

ぼくは初めて近畿大学に行きました。最初は「何があるのかな」「どんなお兄さんやお姉さんがいるのかな」とドキドキしました。

不倒館には人力車や昔のはおりな
どがおいてありました。世耕先生の
絵もあってびっくりしました。

アカデミックシアターは、七万冊
以上の本がありました。さらに女子
自習室もありました。二階にはロ
ボットや標本があつてびっくりしま
した。マンガや小説文庫などがおい
ていました。

英語村ではウノやゲームがおいて
ありました。バスケのドリブルをす
ると「グッド！」と言ってくれてう
れしかったです。

食堂では、いろいろな食べ物があり
ました。食堂のおばちゃんはとても
やさしかったし、作ってくれたのも
おいしかったです。

ぜひたいに近畿大学に入ろうと思
いました。

「すごい近畿大学」

五年桜組 佐藤 優気

近畿大学には色々なすごい建物が
ありました。その中で一番すごかつ
たのはアカデミックシアターです。
その中の本の冊数は約七万冊もあり
ました。ここにはマンガがたくさん
あります。その中にはカフェや会議
室がありました。すごく色々な本が
あり、すごいなと思いました。

二つ目は不倒館です。世耕先生の
一生のことを表した場所です。世耕
先生は近畿大学をつくりました。

不倒館には世耕先生が引いた人力
車がありました。世耕先生の思いが

伝わってきました。

プールがすごく深く、泳げるの
かなと不安になっていたけど、だん
だん慣れて泳げるようになりまし
た。オリンピック選手もそこで練習
していたのすごいなと思いました。



近畿大学はすごく広かったです。

「初めての大学見学」

五年桜組 田中 智彩子

私達が一番最初に行った所は「英
語村」です。そこでいろいろな英語
を学びました。おまけに少し遊びを
しようかいつてもらいました。外国
人の先生はいつものりのりで面白
かったです。

次に「不倒館」に行きました。世
耕先生の作品や映像などが置かれて
いました。私は世耕先生のことを学
校や校歌を作ったことは知っていた
けれど、実際は、人力車をひいてお
客さんを運んでいたりにしていたこ
とがわかったので、私たちの素晴らし
い先生なんだなと思いました。世耕

弘一先生の肖像画があり、その横に
は世耕政隆先生の肖像画もあつてす
ごいなと思いました。

最後に、「アカデミックシアター」
に行きました。いろいろな本があり
ビックリしました。マンガもあつて
面白そうでした。

「初めての大学見学」

五年桜組 中川 優佳

わたしは初めて大学見学をしまし
た。その中で一番楽しかったのは英
語村でした。英語村に一度わたしは
来たことがあります。

それから、不倒館では世耕弘一先
生の町などが表現されていました。
世耕弘昭先生が書いた「山は動かず」
はまだ読んだことはないの、また
読んでみたいです。

アカデミックシアターでは小説で
はなくマンガがたくさんあり、びっ
くりしました。そして、小さな声で
はしゃべってもよいなどとても、リ
ラックスできそうな場所でした。

大学見学はわたしにとって特別な
経験だと思います。なぜなら、小学
生は本当は入れないので水泳学習の
ために入れてもらったからです。そ
れに、世耕先生のことについて新し
く学んだこともたくさんありまし
た。

わたしは近大の学園章を大切にし
たいと思いました。

「大学を見学した一日」

五年桜組 正木 日葉多

私がこの近畿大学に来るのは、こ
れが三回目ですが見学するのは、初
めてです。見学は、したことがなかつ
たので、とても楽しみにしていました。

まず私は、英語村に行きました。
英語村では、外国人の先生が色々な
外国や近畿大学の話をしてくれまし
た。私は英語が好きだけれど、もつ
と好きになりました。

次に不倒館に行きました。不倒館
では、世耕先生のことがたくさん分
かりました。そこで私は、世耕先生
の一生について、興味を持ちました。
不倒館を出て、アカデミックシア
ターに行きました。アカデミックシ
アターには、ロボットがあつたり、
たくさん書類、本などがありました。
私はロボットに興味を持ちまし
た。そして、このアカデミックシア
ターにある本を一度読んでみたいな
と思いました。

アカデミックシアターで見学をし
た後は、みんな楽しみにしていた、
学食体験の時間でした。初めての学
食で、食べられるかどうかわからな
くて、かけうどんにしました。たつ
た五百円持って行っただけで、こん
なに、おなかいっぱい食べられると
は、思っていませんでした。

ご飯を食べた後は、トイレをすま
せ、みんなで集合して、プールに向

かいました。プールが深いと聞いていたので、すこしドキドキしていましたが、そして水にふれた時とても冷たく感じました。一回目泳いだ時は、こわくて、なかなか泳げませんでした。でも、何回かやってみるとうちに、なれてきて、泳げるようになりました。だんだんプールで泳ぐのが楽しくなってきました。平泳ぎでも長く泳いでいられるようになりました。

プールの時間が終わると、もう帰る時間でした。もっと大学にいたいなと思ったけれども帰る時間なので帰りました。私は、大学のみなさんに感謝の気持ちでいっぱいですが、今回は、この近小生だけのために、案内してくださりありがとうございました。

「大好きになった近畿大学」

五年桜組 真野 佑都

ぼくが近畿大学に行って一番うれしかったことは、お兄ちゃんが近畿大学附属高等学校なので少しだけしか見たことがないので、この機会で見つくり見れた事です。

英語村では、本当の外国人の先生にとってもいろいろな事を教えてもらいました。外国語ばっかりを話していたのでよく分からなかったけど、ずっと聞いていると少しずつわかってきました。

アカデミックシアターは、とてもおもしろそうな本がたくさんあつ

て、もう一度来たいなと思って、質問すると

「大学生以上じゃないと入れません。」

と言っていたので残念でした。でもその事から絶対近畿大学に入学しようと思いました。

とてもいい経験になりました。

「最新の図書館」

五年桜組 三宅 乃愛

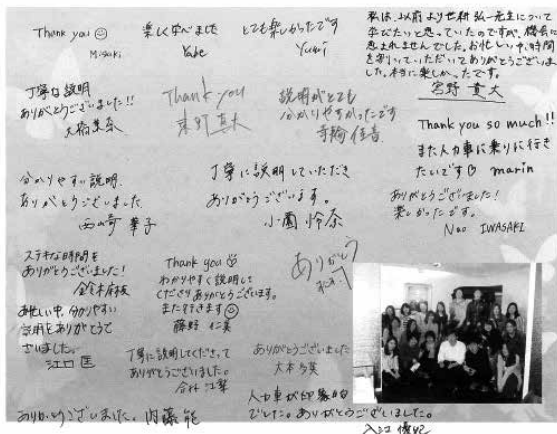
私が一番印象に残ったのは、新しくできたアカデミックシアターです。なぜならその建物の中にカフェが二つもあるからです。しかも2F建てで、1Fはノア2Fはドンデン。私は、1Fのノアという建物が自分の名前と似ていたので、案内のうれしかったです。そして、案内のロボット、ソータ君がいました。通りすがりにソータ君を作った人たちの会議が行われているのを見ました。次に、1Fは、ノアという所です。ノアは、英語の本や勉強する本などがありました。ドンデンは高い所に本は無かったけど1Fのノアは高い所までぎっしりと本がしきつめられていました。中央図書館には本がおおよそ百五十万冊もあって、大学には本がいっぱいあるのです。ごいと思いましたが、一番おどろいたのは1Fのノアは勉強の本ばかりなのに2Fのドンデンは、マンガと小説しかおいてなかった事です。それが一番おどろきました。

不倒館を訪れた方々

国際学部国際学科グローバル専攻の一年生十八人が、内藤能教授とともに、平成二十九年四月二十五日、不倒館を訪れました。

平成二十八年四月に開設された国際学部は、留学準備の一環として自校学習を基礎ゼミの時間に取り入れています。

内藤教授は昨年続き、不倒館見学時間を設け、学生には「近畿大学を知ってほしい」と呼びかけています。そこには、これから留学生生活を迎える学生たちに、「自校学習を通して、近大生としての自覚と誇りを



不倒館訪問後に寄せられたメッセージ集



国際学部国際学科グローバル専攻 内藤ゼミ1年生の皆さん

培ってほしい。そして、それぞれの国で交流を深め、近大生らしく発信してほしい」という願いが込められています。

学生たちは、前期カリキュラムを修了し九月中旬、留学先のアメリカへ向けて出発しました。今、将来に向かって一年間の留学プログラムを始めています。



農学部バイオサイエンス学科から、一年生一三二人、院生と四年生二十五人、教員八人の合わせて一六四人の皆さんが、平成二十九年四月二十六日、不倒館を訪れました。この日は、平成二十九年四月に完成したアカデミックシアターを始め、英語村や不倒館を見学した後、旧大学本館の地下にある学生食堂 KURE で歓迎会が催されました。

一グループ五十人前後という大勢での訪問となりましたが、チームワークのよい一行は、担当職員の説明に協力的に耳を傾け、譲り合って見学していました。

このたびの企画ご担当であった加藤容子教授からは、「新入生にとって大変有意義な時間になりました」と、喜びのコメントをいただきました。



重岡成学部長と記念撮影



農学部バイオサイエンス学科一年生の皆さん

不倒館入館者数の報告	
平成二十一年度	一九五一人
平成二十二年度	二四四六人
平成二十三年度	二五七九人
平成二十四年度	二九七一人
平成二十五年度	四一七二人
平成二十六年度	三四八八人
平成二十七年	三〇六〇人
平成二十八年	一六九四人
平成二十九年	一二〇六人
総数	二四四八九人

平成二十一年九月に開設以来の不倒館入館者数を年度別で報告します。

（平成二十九年八月末現在）

— お問い合わせ先 —

〒 577-8502 東大阪市小若江 3 - 4 - 1

近畿大学 建学史料室

TEL (06) 4307-3091 (ダイヤルイン)

URL <http://www.kindai.ac.jp>

